

+Affiliated with the International Association
THE Y S MEN S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒192-0906
東京都 八王子市北野町 575-22
並木 真 TEL : 090-4314-3044
Fax: 042-649-5276
E-mail: m.namiki1020heartbeat@gmail.com

2025年2月

The Service Club of The YMCA

第356号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会長	並木 真	国際会長 A シャナヴァスカーン (インド) 主題「より良い世界のために、共に」
副会長	久保田 貞視	スローガン「立ち上がろう、そして輝こう」
書記	小口 多津子	アジア太平洋地域会長 ジョウン・ウォン (台湾) 主題「大きなインパクトを起こそう」
会計	長谷川あや子	スローガン「大胆に、信念を持って奉仕しよう」
直前会長	花輪 宗命	東日本区理事 山田 公平 (宇都宮) 主題「ワイズの方向性を見極める」
担当主事	菅野 牧夫	スローガン「ユースエンパワーメントをYMCAと共に」
ブリテン	山本英次 大久保重子	あずさ部部长 ピーター・マウントフォード (甲府) 主題「めあて 望み」
		八王子クラブ会長 並木 真 主題「協働と共感」

2025年2月例会プログラム

(担当 B 班 花輪、望月、久保田、並木真)

日時: 2025年2月22日(土) 18:00~20:00

会場: 八王子市北野事務所2F 大会議室

- 司会: 久保田貞視
- ・開会点鐘 会長 並木 真
 - ・ワイズソング 一同
 - ・ワイズの信条 一同
 - ・ゲスト・ビジターの紹介 会長 並木 真
 - ・聖書朗読と感謝の祈り 並木信一
 - ・卓話 「川口多文化共生イベントの企画と実績」
ひつじくも企画担当 藤原直樹
 - ・スマイル 久保田貞視
 - ・報告・連絡事項 会長・各委員
 - ・ハッピーバースデー(久保田佐和子)
 - ・閉会点鐘 会長 並木 真

巻頭言

第23回チャリティコンサート を目前にして

コンサート実行委員長 花輪宗命



観測史上最大規模の寒波が各地にもたらした豪雪が溶けはじめ、「梅は咲いたか、桜は未だかみぬ」の唄にのって、弥生三月が指呼の間に迫ってまいりました。

三月は、例年、八王子ワイズメンズクラブが誇る看板CS事業である「チャリティコンサート」を開催する重要な月です。途中コロナ禍でやむなく中止に追い込まれた年もありましたが、その伝統はほぼ四半世紀に及び、今年第23回を数えるに至りました。

初めは「対人地雷の廃絶に向けた取り組み」を支援するためのご寄付を募るコンサートでしたが、その後は、我が国の各地で頻発した大規模自然災害(東日本大震災

今月の聖句(2025年2月)

キリストは、私たちの平和であり、二つのものを一つにし、ご自分の肉によって敵意という隔ての壁を取り壊し、数々の規則から成る戒めの律法を無効とされました。こうしてキリストは、ご自分において二つのものを一人の新しい人に造り変えて平和をもたらしてくださいました。十字架を通して二つのものを一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼしてくださいました。

(新約聖書 エフェソの信徒への手紙 2:14~16)

や能登半島地震・豪雨災害など)の被災者支援のためのチャリティもカバーするように発展させてまいりました。

八王子ワイズメンズクラブは、非人道的な武器や大規模な自然災害の被害を受けた方々の幸せを願ってチケットを購入してくださった皆さまの貴いお志を、被災者に確実にお届けできるよう、クラブの総力を挙げて取り組んでまいりたいと思います。

今年は、来る3月15日(土)14時から、八王子北野市民センター8階ホールで、地元八王子出身のソプラノ歌手奈原真里さんが弦の調べと共にお届けするコンサートです。

私どもは、できる限り多くの皆様にお誘い合わせてご来場頂き、素敵な歌と音楽をお楽しみ頂きたいと願っております。

ひつじくも・イオンモール川口イベントに参加して

小口多津子

2月9日のイオンモール川口での「ひつじくも多文化交流イベント」に参加し、少しお手伝いをしました。

8日は、並木会長ほかワイズ衣笠さん、為我井さん、東京YMCA同盟の石橋さんと白羊会OBの米山さんが、9日は為我井さん、久保田さん、花輪さん、稲葉さん、小口で参加。ひつじくもが国際ボランティアサークルの冠を掲げるだけのことはありました。イオンモールの買い物客の子ども連れを目当てに、ワイズは入口で声掛けやチラシを配りました。



川口市は在留外国人の国籍は、上位が中国、ベトナム、フィリピンで

す。その国々の代表的な遊びを、日本の子ども達に分かってもらう、がテーマでした。広場で行った催しは「いろいろな国のクイズに答えて、あそびを体験しよう」「各国のゲームをクリアしたらスタンプをもらおう」「スタンプを集めてその国のお菓子をもらおう」この3つのバージョンに分かれていて、ひつじくもメンバーがゲームを進め、一緒に歓声をあげて遊んでいました。子どもの様子をそばで見ている、ひとりの父親から私は、「この若い方たちは、ど

うら方たちですか」と質問されました。「八王子市にある中央大学の国際ボランティアサークルのメンバーですよ」と言いましたが、目に留められたことに誇らしく思いました。



このイベントの計画をされた代表3年生藤原さんは、ワイズのユースアクション2024に応募の時の背景は、在日外国人が増えている川

口市に目を向け、そこでの彼らの地域とのコミュニケーション不足の現状を知り、テーマにしました(ユースアクション応募用紙の動機の記入事項より)。今回は日本の子ども達に、この3つの国への関心を目的としたもので、このイベント開催にあたって、市役所の許可や協力が必至でした。昨年の夏に、八王子クラブ会長の並木真さんが一緒に、川口市役所へ藤原君の面談に付き添われました。

私は、夏のこの市役所行きのことを知った時に、思い出したことがあります。2年前の2023年5月開催のワイズユース事業の一つである、「オープン・フォーラムY」の報告会です。四谷のYMCA同盟であり、花輪さんと出席しました。この時のひつじくも発表のテーマは、環境問題・ゴミ啓発運動でした。その発表の最後に、今4年生の大山希さんが締めくくりで次のようなことを言われました「環境問題、社会問題を学生で取り上げるには、どうしても学生だけで出来ない部分があって、その時はワイズの方の力が必要です、一番の問題は行政とのかかわりです、間にワイズの方に入って頂けると行政との話し合いがうまく進みます」。まさに今回の会長の手助けは、その発言そのものと感じました。



フィリピンの遊び(川口イオンにて)

ワイワイ甲府評議会

長谷川あや子

あずさ部第2回「ワイワイ甲府評議会」が2月8日(土)、山梨YMCA大澤英二記念ホール『ベテル』にて行われました。八王子クラブからは久保田さん、花輪さん、稲葉さん、長谷川の4名で出席しました。甲府駅から寒風の中を20分歩き山梨YMCAに着きました。会場はすでに整えられ、ホストの甲府21クラブの皆さんが暖かく迎えて下さいました。昨年2月高尾わくわくビレッジで行われた「桑



都評議会」のことを思い出しました。八王子クラブ総出で準備したものでした。

◇議案審議

第一号議案 2025-26年度あずさ部役員一承認

第二号議案 2026-27年度あずさ部部長・大和田浩二さん一承認

第三号議案 あずさ部CS・Yサ事業助成一承認

・松本クラブー第26回アジア賞留学生作文コンテスト・8万円

・富士五湖クラブー第14回障がい者フライングディスク大会・7万円

・甲府21クラブー第6回、第7回ベビーカーコンサートin甲府・5万円

◇2024-25年度会計中間報告

◇事業主査報告

私は会員増強事業主査として報告。現在あずさ部の会員数は153名です。

◇クラブ会長活動報告

並木真会長は8~9日イオンモール川口で行われた中大ひつじぐも企画の「異文化交流」に応



援参加のため、クラブ活動報告は久保田副会長が代理でなさいました。

監事講評の後、閉会点鐘にて評議会は終了。

その後、今回のメインである(グループ討議)の時間となり6人ずつのグループに分かれ部長ピーターさんからの事前検討項目、次期部長山口さんからの活動方針案をもとに話し合いました。あずさ部は過去にも評議会に分団協議の時間を設け、6~7人でよく討議したものです。どのグループも時間が足りないくらい活発に話し合いました。検討内容は主にあずさ部の部長、事務局が担う仕事の簡素化を図るにはどうしたらよいか、次年度からは東日本区から部への活動補助金がなくなるので部会計をどう考えたらよいか、部大会、評議会の在り方などを真剣に前向きに討議しました。各グループの討議記録は後日、部書記から報告があると思います。

懇親会もグループごとのテーブルで和気あいあいと話が弾み、山梨YMCAからのアピールの後、YMCAの歌で締めくくりました。終了後、八王子からの4人は甲府名物の「ほうとう」で身も心も温まって帰路に着きました。



甲府名物「ほうとう」

外国人市民とともに考える

八王子からできる被災者支援

久保田貞視

所属している八王子国際友好クラブによる主題シンポジウムが2月9日(日)八王子学習センターで開催されたので参加、概要報告します。

先ず北田代表の挨拶の後、会員の横森農工大准教授がファシリテーターとなり登壇者7人が報告した。

・まず八王子社会福祉協議会市民力支援課の猿渡氏が2019年10月の台風の被害に触れ八王子でも228件が土砂崩れ・洪水の被害を受け、浅川地区の国道20号線は小川の氾濫で水浸しとなり通行止めとなったこともあり、災害ボランティア部を立ち上げた。自然災害の時も共助の仕組みが大切であり、輪島にも14名のボランティアリーダーを派遣すると共に活動助成金も支給した。

・調理師の方は2011年3月の東日本大震災の時には仕出しのボランティア活動、その後、防災士の資格を取り、輪

島市の災害にも八王子市の災害ボランティアとして3日間土砂の掃き出しをした。

・中国人の劉さんは中国で東日本大震災を知り、日本に多い自然災害にいかにか立ち向かわかを考え来日し輪島にも支援に参加した。日本では大学院に進み自然災害と防災の研究をしたいと。

八王子国際友好クラブ

Hachioji International Friendship Club

私たちは、同じ地域に暮らす外国人と日常生活に根ざした交流を通じ、相互の理解を深め、言葉や国境にとられない広い心を育て、共に暮らせる豊かな街づくりをめざしています。多様な文化とのふれあひにより、新たな文化が創造される場、共に地域に貢献する力が育まれる場、HIFC はそのような場であらうと思います。




URL: <http://hifc802.org>
e-mail: info@hifc802.org

・甲府出身の JICA 職員は珠洲市に滞在、支援活動を続けているがインドネシア始め外国人住民の支援に携わっている。支え合いが大切と力説。

・被災地の輪島出身の都職員は都市づくりを担当しており、今回の能登半島の被災に対し、能登半島出身者が集まり能登支援ネットワークを立ち上げ、救済支援だけでなく能登未来トークやイベントに極力参加している。

・NPO 法人 Chance for

All の方は足立区・品川区で子供たちの居場所作りを実施しており、能登でも居場所のなくなった子供たちに災害時緊急ことも支援をしており、子ども家庭庁より補助金を受けた。

・最後に横森准教授は総括と共に輪島の災害地でのボランティア活動として被災された住民にサロン活動、話し合い、傾聴ボランティアも道路・インフラ復興と共に大切であり、地域の人々の頑張りが見られた。今回は初動の遅れ、地勢の面で孤立した地域が多いこと、仮設住宅の建設が遅れたことなどあるが地域を超えた助け合い、シニアの協力、企業は専門分野で支援する(インフラでは建物・屋根・土木工事等)こと、学生は子どもの教育支援等の役割を明確化することも必要。

第2部の参加型デスクッションでは災害支援も地域で顔の見える支援活動が必要なこと。現地に行けない高齢者等は寄付と共に能登半島の物産品の購入、被災地支援のイベントに出来るだけ参加すること、災害を忘れないことです。

今回、制約された時間内で能登を主とした各方面の被災者支援の実態を聴取できたことは今後の参考になると思う。ただ、「外国人と共に考える」視点が十分でなかったようだ。

例会ゲストさんからの寄稿

例会に参加して

前田 亨さま

今回は並木真会長にお誘い頂き、初めて東京八王子ワイズメンズクラブに参加させて頂きました。並木さんとはお互いの子供が同じ学校に通っていたことから知り合いになりました。

私は子安町にある小さなボランティア団体に所属し活動しております。並木さんとは日頃より、互いの活動を報告しあい、協働することが出来ないか話し合っていました。今回はその一環で例会に参加させて頂きました。



「能登半島災害支援活動報告」を聞かせて頂き感想を書かせて頂きます。一年前の地震、4ヶ月前の水害は報道で見る災害、被害以上に悲惨な状態であったことが熊沢さんの報告でよく分かりました。災害現場での支援活動が如何に自助共助公助だけでなく、それに加え支助が重要であることを再確認しました。支助とは、瓦礫の撤去や泥水の掻き出しが重要なのではなく、“被災者に寄り添うこと”、“心の通う関係”が最も必要であり、それが被災されている方たちに笑顔が生まれるきっかけになるのではないかと思います。

今回初めての参加でしたが、会場を訪れるとメンバー皆様から歓迎の言葉を掛けて頂き、心温まる思いを致しました。クラブに長きにわたり伝わる精神、信条が表れていることが分かり、またクラブの活動の広さ、深さには感銘を受けました。

前田 希世さま

先日は2025年1月の八王子ワイズメンズクラブ例会に参加させて頂き、ありがとうございました。

初めは少し緊張していましたが、皆さんのワイズソングを聴き、一緒にワイズの信条を読み上げるうちに、段々と穏やかな、落ち着いた気持ちになりました。

卓話では熊沢さんのお話から、多々のことを教えて頂きました。

支援活動と言うと、炊き出し、お掃除、被害にあった家の片付け等、生活のお手伝いをイメージしていたのですが、それらはもちろんのこと、被災者の方々と心の交流が大切な業務の一つと知りました。

最初は無愛想だった男性が、徐々に心を開いて行ったお話しは印象的でした。素敵な笑顔の写真に感動しました。

「寄り添う」ことの大切さ…それは災害支援活動のみならず、日々の生活や仕事でも共通することと気付きました。

私もこの言葉を胸に刻んで、過ごして行きたいと思いました。

ひつじぐもの活動をふりかえる

中大ひつじぐも 4年 大山 希

こんにちは。前々委員長の大山 希と申します。

今回はひつじぐもの活動について振り返ってみたいと思います。

私がひつじぐもに入ったときはまさにコロナ禍の時期で、先輩や同輩とも接点がなくサークルらしい活動ができなかった記憶があります。ただ、他のボランティアサークルと違ってオンラインでの交流会や定例会が盛んで、先輩方がどうにか活動を続けようとして



くださったのを覚えています。今でも、サークルに対するこのような熱意や真面目さは変わっていないなど感じますし、中央大学のボランティアサークルの中でも1番だと言えると思います。

1番印象に残っている活動は、大学2年次のときに参加したゴミ拾い甲子園です。これは、私たちの代の1つ上の先輩方が企画してくださいました。この企画で、ひつじぐもの暖かさに触れると同時に多くの仲間が増えたことを覚えています。加えて、ゴミ拾いをした後に行うクイズ大会では、SDGsについて学ぶことができました。この出会いがきっかけで私の目指す進路が変わったこともあり、とても印象深い思い出です。

今触れた通り、サークルをきっかけとしてSDGsや環境問題に興味を持つようになり、大学3年次には環境法を履修しました。また、3年次は委員長となった年であることもあり、私は「人を支えるために活動する」ことが人生のやりがいであることに気づきました。ここから公務員を目指すことになるのですが、委員長と学問との両立を乗り越えて無事公務員試験に受かった時はとても嬉しかったです。

私は、今年の4月から、公務員の中でも環境系の仕事に進むことになりました。この選択が今後何をもたらすのかはわかりませんが、ひつじぐもの活動で学んだ人を思いやる気持ちや目標に向かって努力することを忘れずに働いていきたいと思います。

1つ不安なこととしては、体調です……小さい頃から体力がなく、実はこの原稿もインフルエンザの最中に書いています。当たり前のことですが、睡眠時間とバランスの良い食事を取りつつ、皆さんの元気な笑顔を思い出しながら、元気に仕事をしていきたいと思っています！

1 月例会卓話概要

災害支援活動と地域交流

東京YMCA職員 熊澤佳代さん

概要

この文書は、2025年1月25日に作成された会議記録とミーティングノートの集約です。内容は、地震や水害に対する支援活動、避難所での生活環境の改善、ボランティア活動の意義、地域との交流、そして今後の支援活動の計画に関するものです。また、YMCAの活動やチャリティーイベント、募金活動についても触れられています。各セクションには具体的な行動項目が設定されており、今後の活動に向けた準備が進められています。

*支援活動：東京YMCAによる能登半島地震被災地への支援。

熊澤佳代さんの紹介と活動

熊澤佳代さんの経歴: 東京YMCA 社会体育保育専門学校卒業、30年以上の勤務経験。



活動：山手センターでのボランティアリーダーとしての活動、キャンプ指導。
能登半島地震への対応: 昨年1月1日に石川県の能

登半島で発生した大地震。

初動対応：東京YMCAのスタッフとして最初に現地に入った。

熊澤佳代さんの現在の活動

YMCAでの役割: 水泳指導やキャンプ活動に長く従事。

高齢者支援：港区や江東区での高齢者向け介護予防プログラムの実施。

会員部での活動: 寄付集めや様々な活動の計画を担当。
地震後の対応: 能登半島地震の際の対応とその後の活動についての説明。

個人的な経験：地震発生時の状況とその後の対応についての個人的な体験談。
地震と水害の防護におけるYMCAの関与



概要: 地震とその後の秋に発生した水害に対する防護活動について、YMCAの関与を説明。

活動の流れ: 輪島市の町野町にある小学校と東陽中学校が避難所として使用。

YMCAスタッフ31名がリレー形式で派遣。

***避難所での業務**

訪問者対応: 外部からの訪問者(ボランティア、警察など)の受付対応。

避難所内の管理: 避難所内の清掃活動。

避難所活動と現地調査

生活環境の整備と避難所との対話: お手洗いの掃除など、生活環境を整えることが重要とされ、避難所との対話も重要な役割として認識されている。

現地視察と調査: YMCAスタッフ3名が現地を訪問。

***支援活動の決定と準備**

支援先の決定: 東陽中学校が支援先として決定。

現地への移動と準備: 富山で1週間分の食材を購入し、町に入る準備を整える。

避難所の状況

避難所の環境: 避難所では、ダンボールで寝床を囲い、布団を敷いている状況。

入浴の課題: 高齢者や足の悪い方は入浴が困難で、看護師が付き添うこともある。

***支援活動**

支援物資の状況: 地震発生から23日、4日が経過し、支援物資が多く届いている。

炊き出し: 町唯一のミシュランシェフ、富成さんが避難所で炊き出しを担当。

***医療支援**

医療スタッフ: 黄色いダウンジャケットの大石医師が活動。

***行政とその他の支援**

行政の役割: 市役所の支所が避難所近くにあり、職員が

支援活動を行っている。

***トイレの使用状況と改善**

コンテナトイレ: 1つのコンテナに4つのトイレが設置されており、毎日給水と汲み取りが行われるため、水を流すことが可能。

ラップボンの導入: 用を足す前にゼラチンの粉を投入し、用を足した後にボタンを押すとビニールが自動で閉じ、匂いが漏れない仕組み。

***支援物資と避難所の生活**

支援物資の偏り: 衣服は上着が多く、ズボンや下着が不足。

避難所の生活改善: ダンボールで囲った空間からパーテーション、さらにテントへと改善。

生活インフラの工夫



洗濯設備の工夫: 家から持ち込んだ洗濯機を農業用水槽と接続して使用。

トイレの改善: 3月から

仮のパイプを通してトイレが使用可能に。

***コミュニケーションと地域の受け入れ**

YMCAの活動: YMCAの存在が知られていない地域で、赤いゼッケンを着用し活動。

***生活環境と支援活動**

生活環境: 東陽中学校の2階の家庭科室を利用。

支援活動: 受付業務の支援や地域イベントの参加。

***避難所の状況と今後の計画**

避難所の統合: 仮設住宅への移行が進み、避難所が1カ所に統合される。

*東京YMCAの活動終了: 68日間の活動を経て、31日をもって一旦引き上げ。

***学校生活の再開準備**

新学期に向けた準備: 小学校と中学校の生徒が小学校で学校生活を再開するための準備が進行中。

***避難所での生活と移動**

避難所での経験: 避難所での生活が始まってから1年が経過。

***復興への取り組み**

復興プロジェクトの開始: 地元の人々が新しい街づくりを目指し、プロジェクトを組んで活動を開始。

***大災害とチャリティー活動**

水害の発生: 同じ地域で大地震に続く大水害が発生し、衝撃的な出来事となる。

チャリティー活動: 9月25日から街頭募金が開始され、東京MCAは10月2日に最初の募金活動を実施。

現地調査と支援活動

現地調査の実施: 東京YMCAが現地に入れるか不明な中、情報収集を行い、6月6日から8日にかけて現地調査を実施。

*災害状況と対応

被災地の現状: 中学校や小学校、体育館が泥と水で被害を受け、元屋スーパーも大木が突っ込み店内が荒らされた。

ボランティア活動のスケジュール: 富山を拠点に、町野での作業を行い、日帰りで戻るスケジュールが組まれた。

ボランティア活動の意義と学び

被災者への寄り添い: 被災者の気持ちに寄り添うことの重要性が強調された。

支援活動を通じた学び: 災害に遭っていない者として、被災者の辛さを理解し、寄り添う姿勢が大切であると学



んだ。

*地域との交流

地域住民との関係: YMCAの活動を通じて、地域住民との関係が深まり、訪問時には歓迎された。

*支援活動の重要性

心の通う関係づくり: 活動の一環として感謝の色紙を作成し、心の通う関係づくりが重要であると強調。

現地の状況と支援: 八王子ワイズの協力を得て、支援活動を実施。

*子どものケアとキャンプ活動

未来キャンプ: 1月に2泊3日の「未来キャンプ」を実施。

被災地の子どもたち20人が参加。

*復興支援の継続

心の通じ合う活動: 心の通じ合う活動が大切であると再確認。

被災地でのボランティア活動の効率化を図るため、ボランティアセンターとの連携を強化する。

被災者への寄り添いを重視した活動方針を継続する。

地域住民との交流を深めるための活動を計画する。

新たな支援活動の計画を検討する。

2月卓話者 藤原直輝さんプロフィール

2003年生まれ。中央大学法学部3年生、国際ボランティアサークル「ひつじぐも」2024年度委員長。近年のグローバル化を学生のうちから信念に持ち、2023年度ワイズユース事業のAYC(アジア・ユース・コンポーション)にひつじぐもの4人と参加し、ネパールを訪問、大勢の学生と共に意見交換をしてこられました。今回はワイズ東日本区と東京YMCA同盟と協働のY's×SDGsユースアクション2024年度に応募して、市や自治体との協働をめざし、ひつじぐも全員の取り組みとしてこの企画を実施。

「TOF 強調月間に寄せて」

国際協会 TOF 委員会委員長 田中博之

毎年2月はTOF(Time of Fast: 断食の時)の強調月間です。毎年、各クラブから例会での食事代1回分以上の献金を募り、全世界のクラブ、YMCAから応募があった、主として社会的弱者を支援するプロジェクトを財政的に援助するプログラムです。

1972年の開始以来、10億円以上の献金を集めています。今年度は、8つのプロジェクトを選定し、総額約1,800万円の助成を行うことを決定しました。例えば、シンバブエにおけるユース教育支援、インドにおける女性の縫製技術トレーニングセンター設置などですが、特筆すべきは、私が知る限り、初めて日本からプロジェクトを申請し、選定されたことです。

東日本区としての「不登校児対応プロジェクト」で、約260万円の助成金が決定されました。多くのクラブが参画し、成果が挙がること、ワイズ/YMCA外に対しての良いPRとなることを願っています。詳しくは、2024年11月27日発行の理事通信特別号をご覧ください。

なお、TOF 献金は、自然災害等の緊急支援にも用いられていて、昨年度は、ハワイの山火事被害等へ約240万円の支援を行いました。

2月は、TOFをはじめとする各種献金の締め切りの月です。私たちの献金が何に、どう使われているかをご理解いただいた上で、ご協力いただければ幸いです。

ひつじぐも便り

春寒の候

ひつじぐも ワイズ担当 石原島伶名

こんにちは。中央大学法学部2年、ワイズ係班長の石原島伶名です。梅のつぼみがふくらみ、さわやかな香りが漂うこの頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。



では、ひつじぐもの1月及び2月中旬までの活動をご報告させていただければと思います。

1月はテスト期間と重なる時期であり、活動数は他の月と比べて少なくはなりましたが、少ない回数でも

充実した活動ができていました。活動内容としては、31日に池袋でのゴミ拾いを実施いたしました。ゴミ拾いの後には、今までオンラインで開催していた定例会を対面で実施し、学生同士が直接交流することができることも良い機会を得ることができました。今後も、幹部内で話し合いを積極的に行い、皆が活動に参加しやすい環境をつくっていきたいと思っています。2月5日には児童館活動の一環として、高幡不動の小学校の体育館で子どもたちと様々な遊びをしました。2月8日、9日には、川口イオンモールで世界の遊びを子どもたちに体験してもらうイベントを開催いたしました。この活動は、イオンのメインステージを貸し切って行うとても大規模なもので、川口市役所の方やイオンモールのスタッフの方と連携して準備し、当日を迎えました。また、イベントの内容も、国際ボランティアサークルであるひつじぐもの強みを活かせるものだったと感じております。

ここまで、先月からの活動を振り返って参りましたが、近年ひつじぐもの活動の種類が広がっているように感じています。そのため、この良い傾向をこれから私たちがもっと大きなものとしていけるよう、今まで以上に様々なことに精一杯取り組んでいきたいと思っています。

厳しい寒さが続きますが、皆さまお風邪など引かれませぬようお身体にお気をつけてお過ごしください。



わくビレだより

高尾わくわくビレッジ館長 菅野牧夫

梅の花が咲き始めました。まだ原っぱを見渡した限り花が咲いている木は1本だけですが白梅になります。今年はいつもの年と比べると少し遅いように感じますが、春が近づいてきています。次年度以降の契約更新も、ほぼ確定となり、2月末に東京都との契約更新を待つのみとなります。契約が完了するとやっと公に発表ができます。こちらについても春が近づいてまいりました。

昨年7月からクラウドファンディングでわくわくビレッジのキャラクター「たぬきち」ぬぐるみ作成募金を行ってまいりました。8月末で締め切りでしたが、目標額の59万円を超え、たくさんの方から77万円のご寄付をいただき、見事達成となりました。返礼品などの事後処理も完了いたしました。本当は「たぬきち」の着ぐるみを作りたいのですが、費用が莫大にかかってしまうため、今回はパイロット的にぬぐるみの作成を行いました。クラウドファンディングの返礼品と売店での販売を予定しています。

2月16日(日)までわくわくビレッジの「X」では「おでかけたぬきちフォトコンテスト」と称して、返礼品で届いたぬぐるみを色々なところに連れて行って写真を撮ってもらい、みんなから投票してもらい大賞を選出するイベントを実施しています。ぬぐるみを持っている人たちが、それぞれ「インスタグラム」や「X」でたぬきちやわくわくビレッジを拡散してくれることで、わくわくビレッジの宣伝になってくれることを願っています。

ブリテンの写真に写っているものが、今回作成した「たぬきち」です。ぬぐるみは3月以降わくわくビレッジの売店で販売をいたします。小学校や特別支援学校の生徒たちがわくわくビレッジの思い出に、お土産で購入してくれることを期待しています。



東京YMCA 近況報告

菅野牧夫

1. 全国のYMCAに寄せられた能登半島豪雨緊急支援募金を用いて、11月末までに全国YMCAからボランティア、スタッフ計250名が輪島市町野町での水害ボランティアに参加した。また12月には富山YMCAや全国複数のワイズメンズクラブにより、町野町の仮設住宅でリフレッシュプログラム(クッキングや歌声広場など)が実施された。
2. 毎年恒例のウクライナYMCAクリスマス交流として、東京YMCAキッズガーデンとインターナショナルスクールの子どもたちがウクライナに手作りのカードやお菓子を贈り、ウクライナYMCAの子どもたちからもカードやお菓子が届いた。またウクライナYMCAのViktor Serbulov 総主事より、東京YMCAウクライナ支援募金を用いてウクライナ各地で9つの夏期キャンプを実施し、戦時下の子どもたち計530人が参加したとの報告を受けた。
3. 「第15回フードシントリー」として、12月14日から東陽町センターと江東センターではひとり親家庭と生活にお困りのご家庭21家庭に、食材などを無料配布した。次回は3月中旬に実施予定。
4. 今後の主な行事予定
 - ・「ソシアスフォーラム2024」2月1日
 - 会場:山手センター テーマ:「日本社会で生きる外国にルーツのある子どもたち」
 - ・「YMCAピンクシャツデー2025」(いじめ反対運動) 2月26日
 - ・「国際協力一斉街頭募金」3月22日 新宿駅周辺
 - ・「総主事就退任式」3月29日 会場:日本基督教団 霊南坂教会 司式:古賀博牧師(評議員会会長/日本基督教団早稲田教会)
 - 奏楽・演奏:飯靖子氏(理事/日本基督教団霊南坂教会オルガニスト)
 - ・「第33回チャリティーゴルフ大会」4月10日 PGM総成ゴルフクラブ



今月の聖句によせて (2025年2月)

「すべての人は、私たちの兄弟です。キリストが十字架で流された血によって、私たちは同じ父の子とされました。家族の一員が苦しんで死ぬと、他の家族も悲しみます。毎年数百万の人々が餓死するのを知っている以上、このままの生活に安住するわけにはいきません。たとえ、経済的に可能であったとしても、適当で必要最低限の生活以上の暮らしをすることは罪です。繰り返して言いますが、それぞれの場で、この世界に正義が実現されるために、力いっぱい戦おうとしないことは罪です。

.....

パン屋の前で行列をつくったのは、主よ、あなたです

残飯のかけらを食べたのもあなたです

ひもじさにさいなまれて餓死したのもあなたです

26歳で、ひとり街角に餓死したのも、あなたです

その街角の大ホールで、わたしたちは家族のものと飲み食いし、わたしは飢えのウの字も知らないで、たべあきました

それだけあれば、あなたの飢えを救えるものを。

.....

主よ、わたしはもはや腹いっぱい食べません

主よ、わたしはふたたび満腹になりたくありません

主よ、わたしが生きるに必要なものだけを食べ

あなたに仕え、わたしの兄弟たちのために戦います

それは主よ、わたしが食べ飽きている時に

あなたが空腹で、餓死なさるからです。」

(*以上、ミシェル・クオスト著「神に聴くすべを知っているなら」より抜粋)

ワイズメンズクラブで2月は世界中の飢餓に苦しむ人を覚え、働く月です

並木 信一



2025年1月第一例会 報告

小口多津子(書記)

日時:2025年1月25日(土)18:00~20:00

会場:北野事務所

出席(敬称略) A班:佐藤、長谷川、稲葉、小口

B班:並木真、花輪、久保田、久保田佐和子、望月

C班:菅野、山本、大久保、並木信、並木雍子

ひつじくも:大山希(4年)

ゲスト:熊沢佳代(卓話者)、前田 亨、希世(並木真友

人)、ビジター 田中博之(東京多摩スマイル)

以上19名

卓話:「能登半島災害支援活動報告、支援活動を通して学んだこと、感じたこと」

東京YMCA職員会員部担当 熊沢佳代氏

スマイル:30,000円を能登半島震災支援活動の為に

(9月及び1月スマイル+田中さん、長谷川さん寄付)

ハッピーバースデー:佐藤信也、メネット正子さん、並木信一さん

諸報告:①会長から、12/14に久保田メネと並木会長で「こども食堂北野カフェ」訪問して11月スマイルの12,500円を寄付されたこと。

②12月14日(土)クリスマス例会(C班担当)大学セミナーハウス、31名出席

③12月19日(木)ワイズ主催NYC2024アラブ首長国連合ドバイで開催(11月)の参加者のお二人(中大ひつじくも岩崎葵さん、慶応大学生下山夏生央さん)のZOOMで報告会。

④1月11日(土)在京ワイズ新年会(午後)東京Y東陽町センター

出席:久保田、長谷川、菅野、並木真、小口。

在京ワイズ会長会(午前中)出席:並木会長、菅野担当主事。

会長会の報告(並木会長)

・在京ワイズ新年会のホスト担当クラブについて、今までのように1クラブでのホストはむずかしくなっているのので、今年のように2、3のクラブ合同での開催も予定する。

・菅谷東京YMCA総主事報告:これまでの能登半島震災支援募金12月末現在11,300千円。

・東京YMCA総主事がこの3月で交代される、菅谷淳氏から現副総主事の星野太郎氏に。

2月、3月の予定(会長)

・2月1日(土)東京YMCA会員部主催 ソシアスフォーラム、pm2~4時 テーマ「日本社会で生きる外国(こ)レートのある子供達の支援の現場」

・2月8日(土)第2回あずさ部評議会、ホスト甲府21、山梨YMCAホール 出席(久保田、長谷川、花輪、稲葉)

・2月8、9日中大ひつじくもが応募したユースアクションの実施「多文化交流イベント」会場、埼玉県川口市イオンモール川口広場、会場案内をワイズでお手伝い、参加(8日)並木会長、(9日)花輪、久保田、長谷川、稲葉、小口、

・2月22日(土)2月第一例会 北野事務所 ひつじくもユースアクション報告会(藤原君)

第一例会前に、4時から事務会としてチャリティーコンサートの打ち合わせ(花輪委員長)

・3月1日(土)能登半島地震&豪雨被災者支援のための街頭募金(並木信一担当)

集合時間・午後1時、場所 JR八王子駅北口階段下、~3:30まで。雨天中止。

参加予定・・・メンバー、ひつじくも、他クラブビジター

・3月8、9日次期会長・部役員・ワイズ各主任研修会 東山荘 出席予定(長谷川、並木真)

・3月15日(土)2:00~第23回地雷廃絶、能登半島災害支援チャリティーコンサート

・3月22日IBC高雄・港クラブ創立25周年記念会

・2月26日 東京YMCAピンクシャツデー

以上

2月お誕生の方
久保田佐和子さん 2月21日

先月の例会ポイント(1月)

在籍	12名	切手	計 583g
メン	12名	現金	0円
メーキャップ	0名	累計	0円
出席率	100%	スマイル	20,000円
メネット	2名	累計	76500円
ゲスト	3名	オークション	0円
ビジター	1名	累計	0円
ひつじくも	1名		

切手収集明細 大久保126g、稲葉42g、小口75g、並木真140g、長谷川82g、酢屋118g